

# 令和7年度学校保健統計調査の概要

## —三重県分—

### 1. 調査の目的

この調査は、学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的としています。

### 2. 調査の範囲・対象

#### (1) 調査範囲

幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校及び高等学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校（以下「調査実施校」という）

#### (2) 調査の対象

調査実施校に在籍する満5歳から17歳（令和7年4月1日現在）までの幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という）の一部

区 分	学校総数	調査実施校		児 童 等 総 数	発育状態調査		健康状態調査	
		学校数	抽出率		対象者数	抽出率	対象者数	抽出率
幼 稚 園	229 園	32 園	14.0 %	6,041 人	991 人	16.4 %	1,373 人	22.7 %
小 学 校	361 校	59 校	16.3 %	81,656 人	5,523 人	6.8 %	23,276 人	28.5 %
中 学 校	169 校	39 校	23.1 %	45,445 人	4,448 人	9.8 %	16,219 人	35.7 %
高 等 学 校	73 校	27 校	37.0 %	41,151 人	2,384 人	5.8 %	19,998 人	48.6 %
合 計	832 校	157 校		174,293 人	13,346 人	7.7 %	60,866 人	34.9 %

- 発育状態の調査は、調査実施校に在籍する児童等のうち、年齢別・男女別に抽出された者を対象とし、健康状態の調査は、調査実施校に在籍する児童等のうち、調査対象年齢の全員を対象としています。
- 学校総数について、幼保連携型認定こども園は幼稚園に含みます。また、義務教育学校は小学校及び中学校にそれぞれ計上、中等教育学校は中学校及び高等学校にそれぞれ計上しています。
- 児童等総数について、幼稚園は幼保連携型認定こども園を含んだ5歳児のみの人数、小学校は義務教育学校（第1～6学年）を含んだ人数、中学校は義務教育学校（第7～9学年）及び中等教育学校の前期課程を含んだ人数、高等学校は中等教育学校の後期課程を含み、全日制の専攻科及び定時制の4年生を除いた人数です。

### 3. 調査事項

学校保健安全法により実施される健康診断の結果に基づき、児童等の発育状態（身長、体重）及び健康状態（疾病、異常の有無）を調査。

※詳細は健康状態調査項目の詳細を参照

## 4. 調査の時期

令和 7 年 4 月 1 日から令和 7 年 6 月 30 日までの間に実施。

## 5. 利用上の注意

統計表における記号の意味は、次のとおりです。

「0.0」…数値が単位未満の場合

「—」…該当者がいない場合

「…」…調査対象とならなかった場合

「△」…数値がマイナスとなる場合

「X」…標本サイズが小さい等のため統計数値を公表しない場合

※ 令和 2 年度から令和 5 年度の調査結果については、新型コロナウイルス感染症の影響により測定時期を異にしたデータが含まれた結果であることから、今回の調査結果と比較することはできません。

## 6. 調査結果の概要

### (1) 発育状態調査

年齢別の発育状態において、全国との差が最も大きくなったのは、身長は、男子では 11 歳で $-0.7\text{cm}$ 、女子では 17 歳で $-0.7\text{cm}$ でした。体重は、男子では 13 歳で $-0.8\text{kg}$ 、女子では 16 歳で $+1.1\text{kg}$ でした。

三重県平均値と全国平均値は、身長は、男子では $-0.7\text{ cm}\sim+0.5\text{ cm}$ 、女子では $-0.7\text{ cm}\sim+0.3\text{ cm}$ 、体重は、男子では $-0.8\text{ kg}\sim+0.7\text{ kg}$ 、女子では $-0.7\text{ kg}\sim+1.1\text{ kg}$ の差がありました。

男子と女子を比較すると、男女差が最大となったのは、身長は 17 歳の  $13.8\text{ cm}$ 、体重は 17 歳の  $11.0\text{kg}$  でした。

### (2) 健康状態調査

裸眼視力 1.0 未満の者の割合（5 歳～11 歳）が最も高いのは 11 歳で  $52.0\%$ 、最も低いのは 5 歳で  $22.5\%$  となっています。全国と比較すると、6 歳、11 歳で三重県が全国より高くなっています。

※三重県の 10 歳、12 歳～17 歳は標本数が少ない等のため、統計数値を公表していません。

鼻・副鼻腔疾患（蓄のう症、アレルギー性鼻炎（花粉症等）等）の者の割合が最も高いのは 9 歳で  $18.1\%$ 、最も低いのは 13 歳で  $2.0\%$  となっています。全国と比較すると、9 歳、17 歳で三重県が全国より高くなっています。

※三重県の16歳は、標本数が少ない等のため、統計数値を公表していません。

むし歯（う歯）の者の割合（処置完了者を含む）が最も高いのは9歳で39.0%、次いで8歳で37.0%となっています。また、最も低いのは5歳で21.0%、次いで15歳で23.7%となっています。

全国と比較すると、14歳以下では、全ての年齢で三重県が全国より高くなっています。

アトピー性皮膚炎の者の割合が最も高いのは10歳で4.3%、最も低いのは5歳で0.9%となっています。

全国と比較すると、8歳、10歳～11歳、15歳～17歳で三重県が全国より高く、その他の年齢で三重県が全国より低くなっています。

ぜん息の者の割合最も高いのは6歳で3.5%、最も低いのは5歳と17歳で1.5%です。

全国と比較すると、5歳、11歳、13歳～16歳で三重県が全国より高く、その他の年齢で三重県が全国より低くなっています。

### (3) 肥満傾向児、痩身傾向児の出現率

肥満傾向児の出現率は、男子は11歳で最も高く16.17%、女子は9歳で最も高く12.25%となっています。男女で比較すると、6歳、8歳～9歳、16歳で男子の割合より女子の割合が高くなっています。

痩身傾向児の出現率は、男子は13歳で最も高く3.61%、女子は12歳で最も高く4.39%となっています。男女で比較すると、7歳～8歳、12歳、14歳～15歳で男子の割合より女子の割合が高くなっています。

## ◆ 発育状態調査

### 1. 身長・体重の年齢別平均値と全国平均値との比較

#### (ア) 身長（表 1-1、図 1-1、統計表）

##### ① 男子

男子の身長は、全国平均値と比べると、10 歳、16 歳～17 歳で上回り、9 歳、12 歳で同値、その他の年齢で下回っています。

##### ② 女子

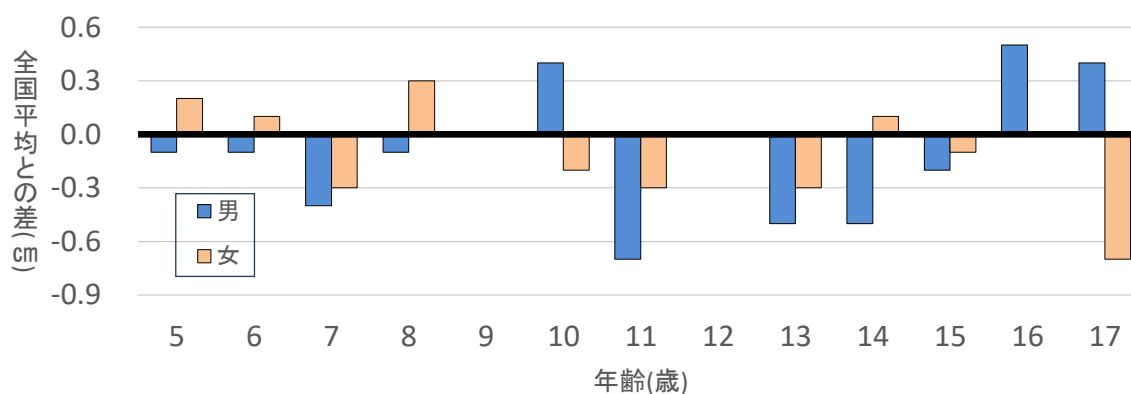
女子の身長は、全国平均値と比べると、5 歳～6 歳、8 歳、14 歳で上回り、9 歳、12 歳、16 歳で同値、その他の年齢で下回っています。

表 1-1 身長の年齢別平均値と全国平均値との比較

単位: cm

学年・年齢(歳)	男			女		
	三重県 A	全国 B	差 A-B	三重県 A	全国 B	差 A-B
幼稚園 小学校						
5	110.3	110.4	△ 0.1	109.7	109.5	0.2
1年生 6	116.5	116.6	△ 0.1	115.7	115.6	0.1
2年生 7	122.3	122.7	△ 0.4	121.3	121.6	△ 0.3
3年生 8	128.2	128.3	△ 0.1	127.8	127.5	0.3
4年生 9	134.0	134.0	0.0	133.8	133.8	0.0
5年生 10	139.9	139.5	0.4	140.7	140.9	△ 0.2
6年生 11	145.4	146.1	△ 0.7	147.1	147.4	△ 0.3
中学校						
1年生 12	153.8	153.8	0.0	152.4	152.4	0.0
2年生 13	160.6	161.1	△ 0.5	154.7	155.0	△ 0.3
3年生 14	165.6	166.1	△ 0.5	156.5	156.4	0.1
高等学校						
1年生 15	168.4	168.6	△ 0.2	156.9	157.0	△ 0.1
2年生 16	170.4	169.9	0.5	157.5	157.5	0.0
3年生 17	171.0	170.6	0.4	157.2	157.9	△ 0.7

図 1-1 身長の年齢別平均値と全国平均値との差



## (イ) 体重（表 1－2、図 1－2、統計表）

### ① 男子

男子の体重は、全国平均値と比べると、6 歳～7 歳、9 歳～10 歳、12 歳、15 歳～17 歳で上回り、5 歳、8 歳、11 歳で同値、その他の年齢で下回っています。

### ② 女子

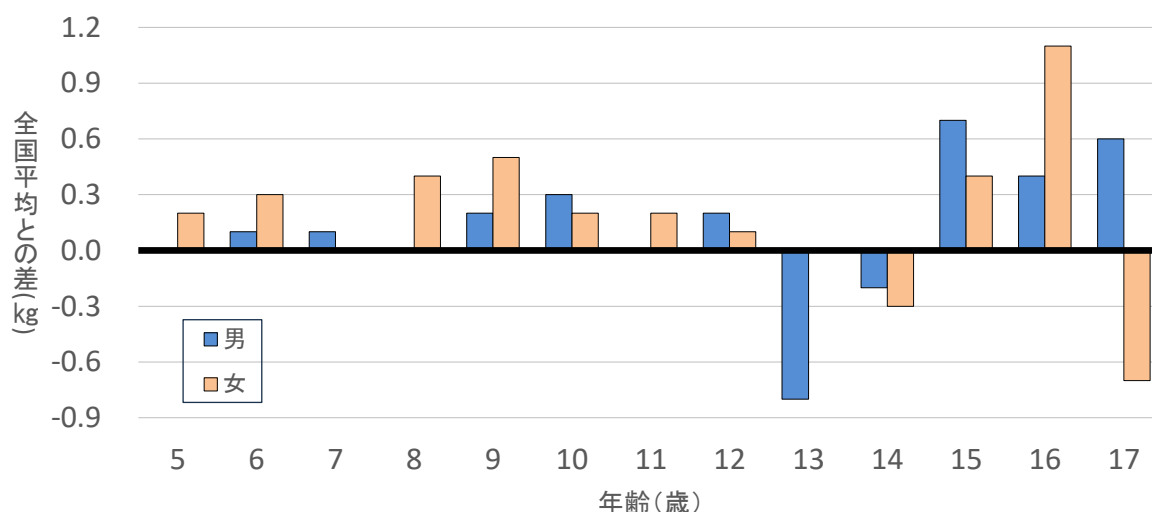
女子の体重は、全国平均値と比べると、5 歳～6 歳、8 歳～12 歳、15 歳～16 歳で上回り、7 歳、13 歳で同値、その他の年齢で下回っています。

表 1－2 体重の年齢別平均値と全国平均値との比較

単位: kg

学年・年齢(歳)	男			女		
	三重県 C	全国 D	差 C-D	三重県 C	全国 D	差 C-D
幼稚園 小学校						
5	19.0	19.0	0.0	18.9	18.7	0.2
1年生 6	21.5	21.4	0.1	21.3	21.0	0.3
2年生 7	24.3	24.2	0.1	23.6	23.6	0.0
3年生 8	27.4	27.4	0.0	27.2	26.8	0.4
4年生 9	31.4	31.2	0.2	30.9	30.4	0.5
5年生 10	35.4	35.1	0.3	35.1	34.9	0.2
6年生 11	39.6	39.6	0.0	40.0	39.8	0.2
中学校						
1年生 12	45.4	45.2	0.2	44.5	44.4	0.1
2年生 13	49.6	50.4	△ 0.8	47.5	47.5	0.0
3年生 14	54.8	55.0	△ 0.2	49.4	49.7	△ 0.3
高等学校						
1年生 15	59.8	59.1	0.7	51.4	51.0	0.4
2年生 16	60.7	60.3	0.4	53.0	51.9	1.1
3年生 17	62.8	62.2	0.6	51.8	52.5	△ 0.7

図 1－2 体重の年齢別平均値と全国平均値との差



## 2. 年齢間および男女の比較

1歳下の年齢及び男子と女子を比較します。

### (ア) 身長（表2-1、図2-1、図2-2、統計表）

男子の身長の年齢間差が最大となるのは、11歳と12歳の差で8.4cmです。12歳をピークに年齢間差は小さくなっていきます。

女子の身長の年齢間差が最大となるのは、9歳と10歳の差で6.9cmです。10歳をピークに年齢間差は小さくなっていきます。

男子と女子を比較すると、13歳から男子が女子を大きく上回り、男女差が最大となったのは17歳で13.8cmです。

※「年齢間差」は当該年齢の数値から1歳下の数値を差し引いたものです。

表2-1 身長の年齢間差および男女差

単位：cm

学年・年齢(歳)		男		女		男女差 A-B
		身長 A	年齢間差	身長 B	年齢間差	
幼稚園	5	110.3	-	109.7	-	0.6
小学校						
1年生	6	116.5	6.2	115.7	6.0	0.8
2年生	7	122.3	5.8	121.3	5.6	1.0
3年生	8	128.2	5.9	127.8	6.5	0.4
4年生	9	134.0	5.8	133.8	6.0	0.2
5年生	10	139.9	5.9	140.7	6.9	△ 0.8
6年生	11	145.4	5.5	147.1	6.4	△ 1.7
中学校						
1年生	12	153.8	8.4	152.4	5.3	1.4
2年生	13	160.6	6.8	154.7	2.3	5.9
3年生	14	165.6	5.0	156.5	1.8	9.1
高等学校						
1年生	15	168.4	2.8	156.9	0.4	11.5
2年生	16	170.4	2.0	157.5	0.6	12.9
3年生	17	171.0	0.6	157.2	△ 0.3	13.8

図2-1 年齢間差（身長）

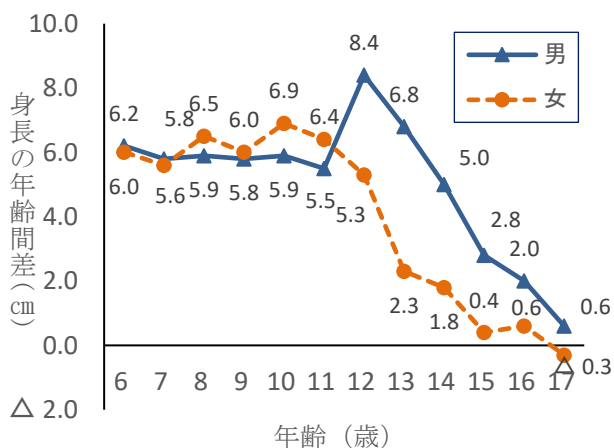
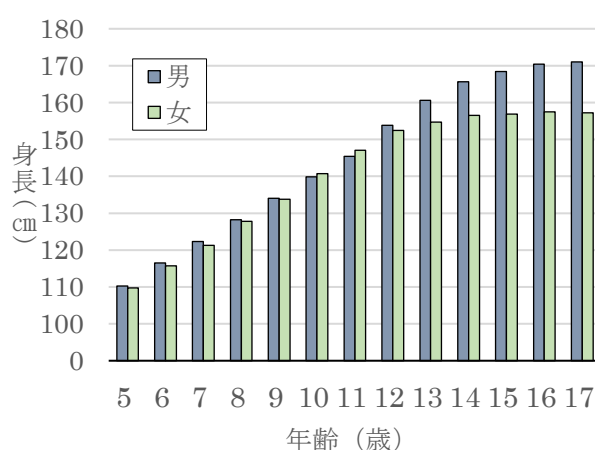


図2-2 男女差（身長）



## (イ) 体重（表 2-2、図 2-3、図 2-4、統計表）

男子の体重の年齢間差が最大となるのは、11 歳と 12 歳の差で 5.8 kg です。12 歳をピークに年齢間差は小さくなっていきます。

女子の体重の年齢間差が最大となるのは、10 歳と 11 歳の差で 4.9 kg です。11 歳をピークに年齢間差は小さくなっていきます。

男子と女子を比較すると、13 歳から男子が女子を大きく上回り、男女差が最大となったのは 17 歳で 11.0 kg です。

表 2-2 体重の年齢間差および男女差

単位：kg

学年・年齢（歳）		男		女		男女差 A-B
		体重 A	年齢間差	体重 B	年齢間差	
幼稚園	5	19.0	-	18.9	-	0.1
小学校						
1年生	6	21.5	2.5	21.3	2.4	0.2
2年生	7	24.3	2.8	23.6	2.3	0.7
3年生	8	27.4	3.1	27.2	3.6	0.2
4年生	9	31.4	4.0	30.9	3.7	0.5
5年生	10	35.4	4.0	35.1	4.2	0.3
6年生	11	39.6	4.2	40.0	4.9	△ 0.4
中学校						
1年生	12	45.4	5.8	44.5	4.5	0.9
2年生	13	49.6	4.2	47.5	3.0	2.1
3年生	14	54.8	5.2	49.4	1.9	5.4
高等学校						
1年生	15	59.8	5.0	51.4	2.0	8.4
2年生	16	60.7	0.9	53.0	1.6	7.7
3年生	17	62.8	2.1	51.8	△ 1.2	11.0

図 2-3 年齢間差（体重）

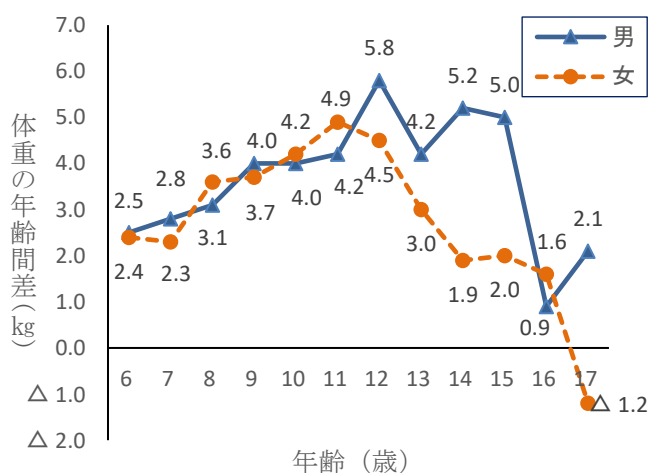
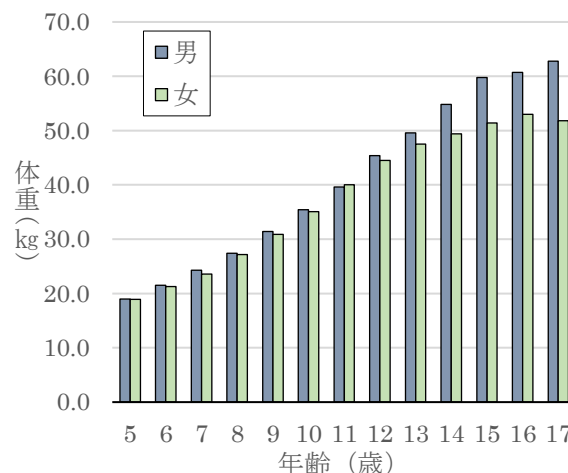


図 2-4 男女差（体重）



### 3. 30 年前（父母世代）との比較

令和 7 年度の結果と 30 年前（父母世代）を比較します。

#### （ア）身長（表 3-1、図 3-1、図 3-2、統計表）

##### ① 男子

男子の身長は、5 歳、7 歳、16 歳～17 歳で父母世代を下回るか同値、その他の年齢で父母世代を上回っています。最も差がある年齢は、12 歳で 2.1 cm 高くなっています。

##### ② 女子

女子の身長は、5 歳～7 歳、13 歳～14 歳、16 歳～17 歳で父母世代を下回るか同値、その他の年齢で父母世代を上回っています。最も差がある年齢は 17 歳で 0.9 cm 低くなっています。

表 3-1 身長の年齢別平均値の 30 年前（父母世代）との比較

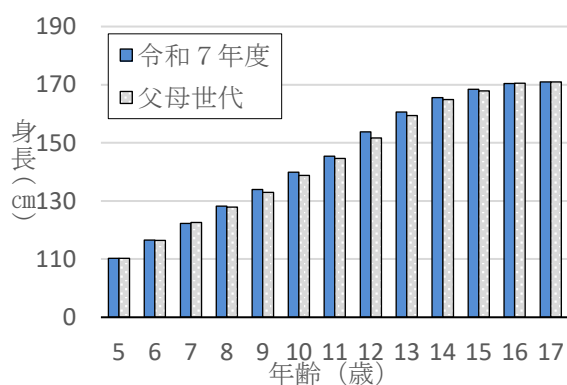
学年・年齢(歳)		男			女		
		令和 7 年度 A	父母世代 平成 7 年度 B	父母世代との 差 A-B	令和 7 年度 A	父母世代 平成 7 年度 B	父母世代との 差 A-B
幼稚園	5	110.3	110.3	0.0	109.7	109.8	△ 0.1
小学校	1年生 6	116.5	116.4	0.1	115.7	115.7	0.0
	2年生 7	122.3	122.6	△ 0.3	121.3	121.6	△ 0.3
	3年生 8	128.2	127.9	0.3	127.8	127.0	0.8
	4年生 9	134.0	133.0	1.0	133.8	133.6	0.2
	5年生 10	139.9	138.8	1.1	140.7	139.9	0.8
	6年生 11	145.4	144.6	0.8	147.1	146.4	0.7
中学校	1年生 12	153.8	151.7	2.1	152.4	152.1	0.3
	2年生 13	160.6	159.4	1.2	154.7	155.1	△ 0.4
	3年生 14	165.6	164.9	0.7	156.5	156.6	△ 0.1
高等学校	1年生 15	168.4	167.9	0.5	156.9	156.8	0.1
	2年生 16	170.4	170.5	△ 0.1	157.5	157.7	△ 0.2
	3年生 17	171.0	171.0	0.0	157.2	158.1	△ 0.9

単位:cm

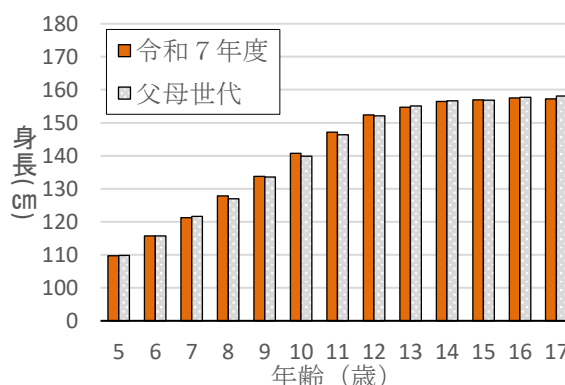
図 3-1

図 3-2

身長の年齢別平均値の 30 年前（父母世代）との比較  
（男子）



身長の年齢別平均値の 30 年前（父母世代）との比較  
（女子）





## (イ) 体重（表 3-2、図 3-3、図 3-4、統計表）

### ① 男子

男子の体重は、5 歳～8 歳、16 歳～17 歳で父母世代を下回り、その他の年齢で父母世代を上回っています。最も差がある年齢は、12 歳で 1.7 kg 重くなっています。

### ② 女子

女子の体重は、7 歳、13 歳～14 歳、17 歳で父母世代を下回り、5 歳で同値、その他の年齢で父母世代を上回っています。最も差がある年齢は、17 歳で 1.7 kg 父母世代よりも軽くなっています。

表 3-2 体重の年齢別平均値の 30 年前（父母世代）との比較

		男			女		
学年・年齢(歳)		令和 7 年度 C	父母世代 平成 7 年度 D	父母世代との 差 C-D	令和 7 年度 C	父母世代 平成 7 年度 D	父母世代との 差 C-D
幼稚園	5	19.0	19.1	△ 0.1	18.9	18.9	0.0
小学校							
1年生	6	21.5	21.6	△ 0.1	21.3	21.1	0.2
2年生	7	24.3	24.4	△ 0.1	23.6	23.7	△ 0.1
3年生	8	27.4	27.5	△ 0.1	27.2	26.5	0.7
4年生	9	31.4	30.2	1.2	30.9	30.2	0.7
5年生	10	35.4	34.3	1.1	35.1	34.2	0.9
6年生	11	39.6	38.0	1.6	40.0	39.2	0.8
中学校							
1年生	12	45.4	43.7	1.7	44.5	44.4	0.1
2年生	13	49.6	48.9	0.7	47.5	47.6	△ 0.1
3年生	14	54.8	54.2	0.6	49.4	50.0	△ 0.6
高等学校							
1年生	15	59.8	59.0	0.8	51.4	51.3	0.1
2年生	16	60.7	61.1	△ 0.4	53.0	52.9	0.1
3年生	17	62.8	63.2	△ 0.4	51.8	53.5	△ 1.7

単位: kg

図 3-3

体重の年齢別平均値の 30 年前（父母世代）との比較  
(男子)

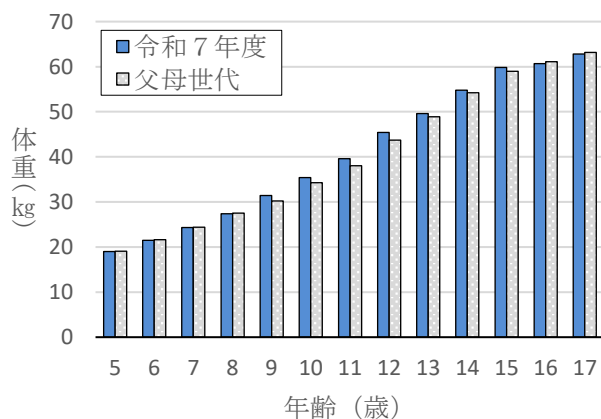
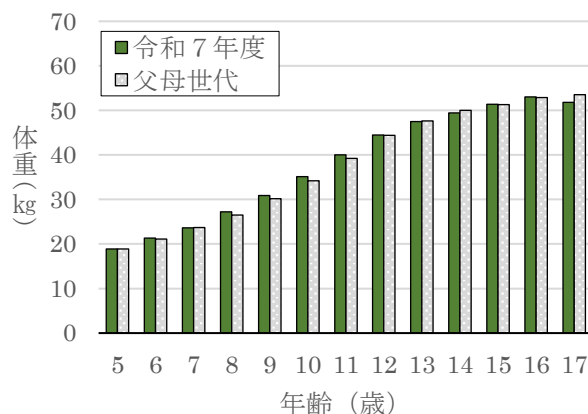


図 3-4

体重の年齢別平均値の 30 年前（父母世代）との比較  
(女子)



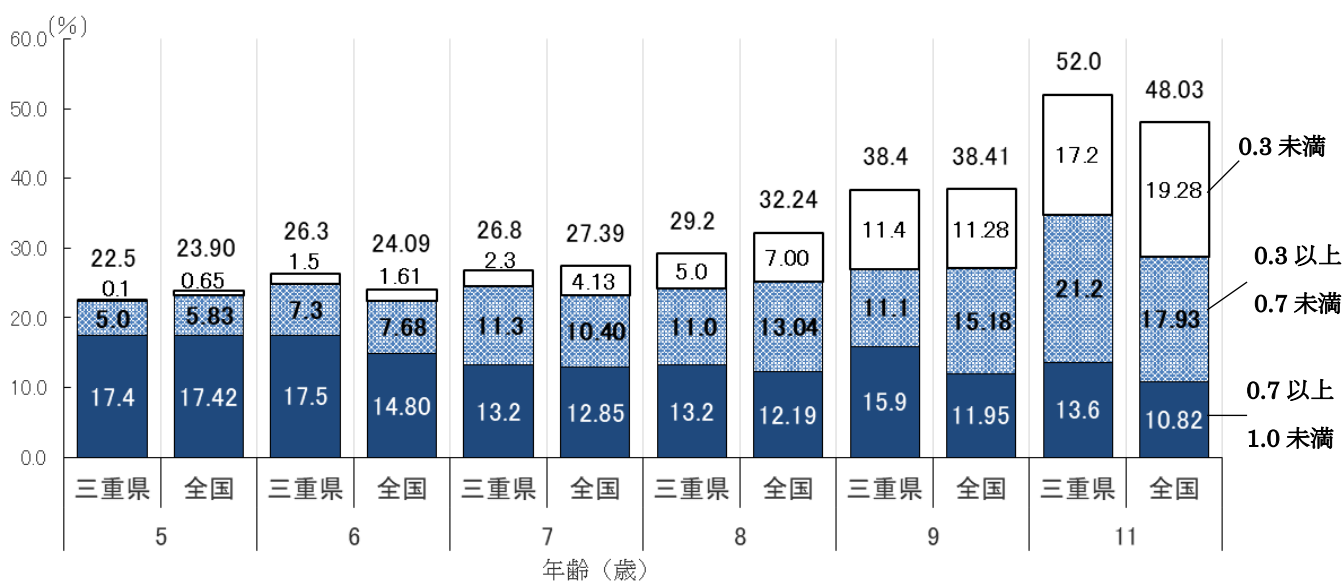
## ◆ 健康状態調査

### 4. 裸眼視力（図 4-1、図 4-2、統計表）

裸眼視力 1.0 未満の者の割合が最も高いのは 11 歳で 52.0%、最も低いのは 5 歳で 22.5% となっています。全国と比較すると、6 歳、11 歳で三重県が全国より高くなっています。

※三重県の 10 歳、12 歳～17 歳は標本数が少ない等のため、統計数値を公表していません。

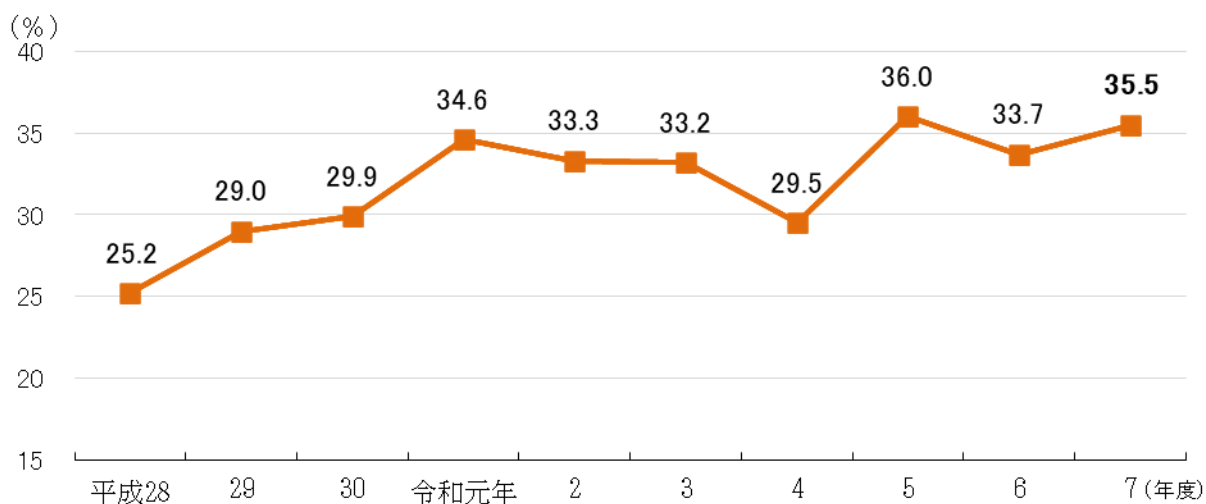
図 4-1 裸眼視力 1.0 未満の者の割合（全国との比較）



小学校の裸眼視力 1.0 未満の者の割合の推移をみると、令和 7 年度は、前年度に比べて 1.8 ポイントの増加となりました。

※三重県の幼稚園、中学校、高等学校は、裸眼視力の標本数がないか少なく、公表していない年度が複数存在するため、年次推移グラフは掲載していません。

図 4-2 小学校の裸眼視力 1.0 未満の者の推移（三重県）

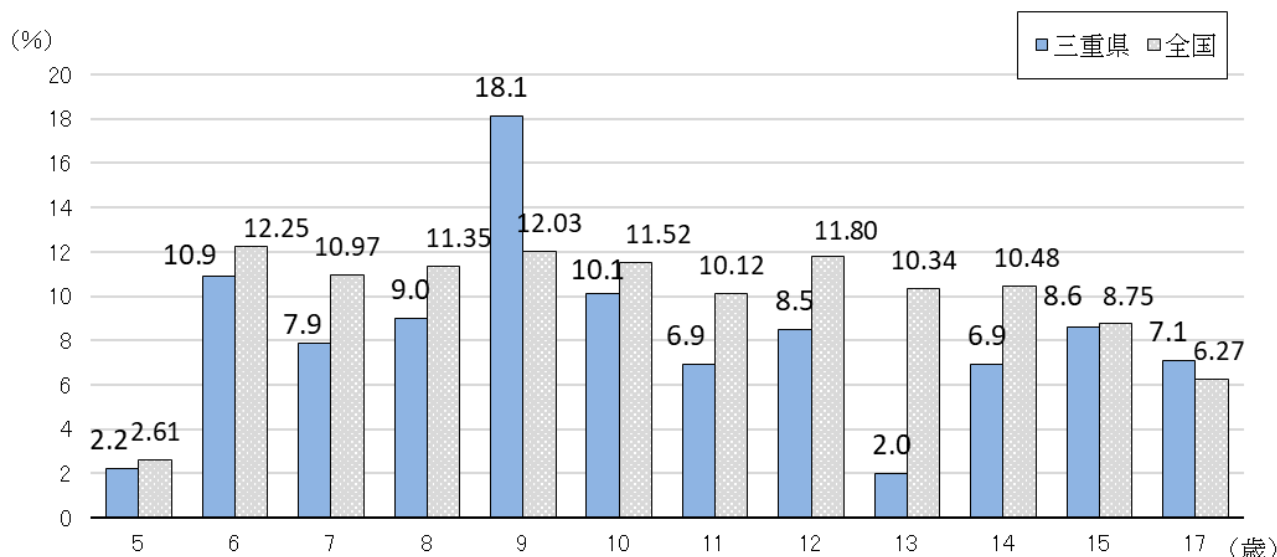


## 5. 鼻・副鼻腔疾患（図5-1、図5-2、統計表）

鼻・副鼻腔疾患（蓄のう症、アレルギー性鼻炎（花粉症等）等）の者の割合が最も高いのは9歳で18.1%、最も低いのは13歳で2.0%となっています。全国と比較すると、9歳、17歳で三重県が全国より高くなっています。

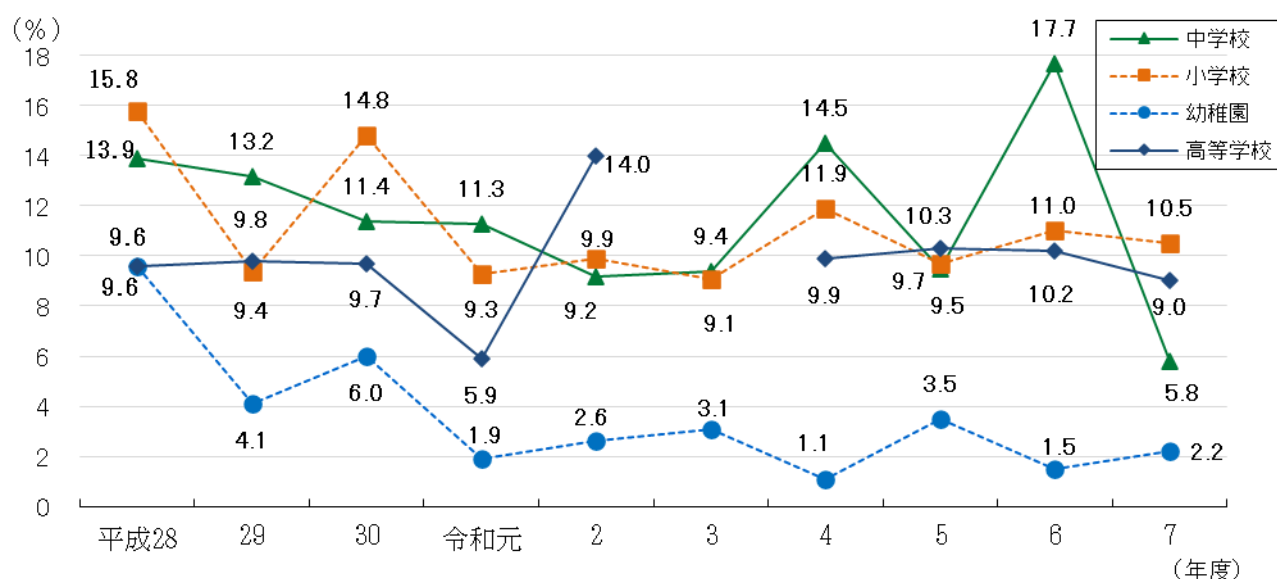
※三重県の16歳は、標本数が少ない等のため、統計数値を公表していません。

図5-1 鼻・副鼻腔疾患の者の割合（全国との比較）



学校種別ごとに鼻・副鼻腔疾患の割合の推移をみると、令和7年度は、前年度に比べて幼稚園が0.7ポイントの増、小学校、中学校、高等学校ではそれぞれ0.5ポイント、11.9ポイント、1.2ポイントの減となりました。

図5-2 学校種別 鼻・副鼻腔疾患の者の推移（三重県）



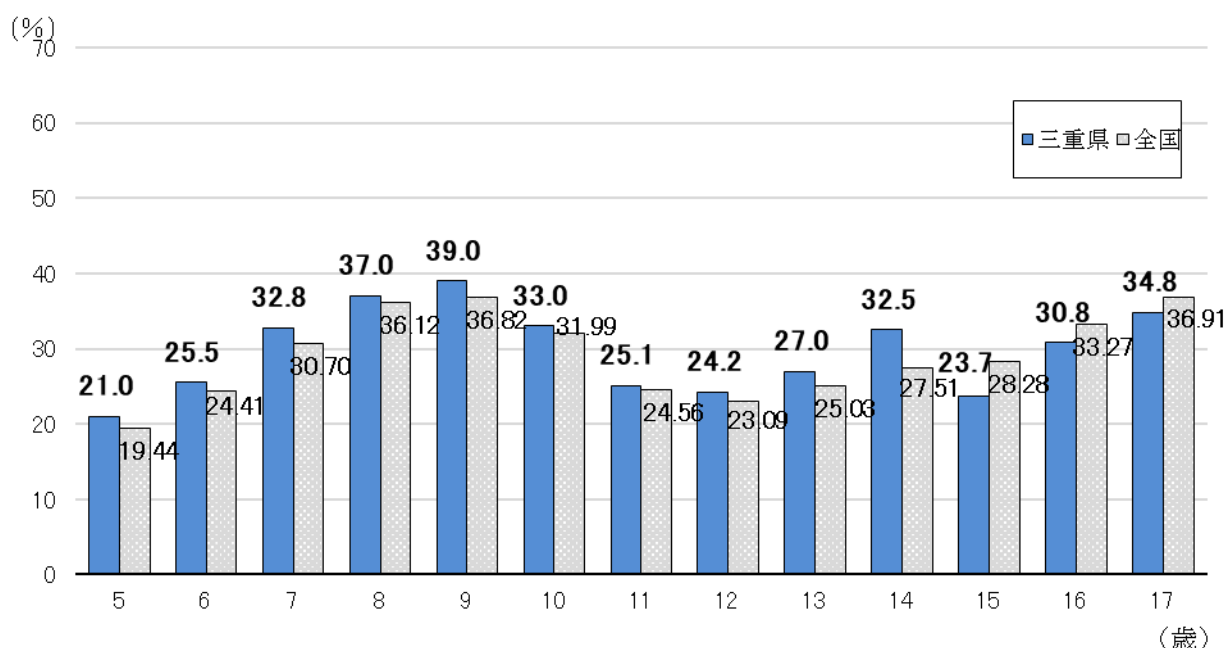
※三重県の高等学校の令和3年度の値は、標本数が少ない等のため、統計数値を公表していません。

## 6. むし歯（う歯）（図 6-1、図 6-2、統計表）

むし歯（う歯）の者の割合（処置完了者を含む。）が最も高いのは9歳で39.0%、次いで8歳で37.0%となっています。また、最も低いのは5歳で21.0%、次いで15歳で23.7%となっています。

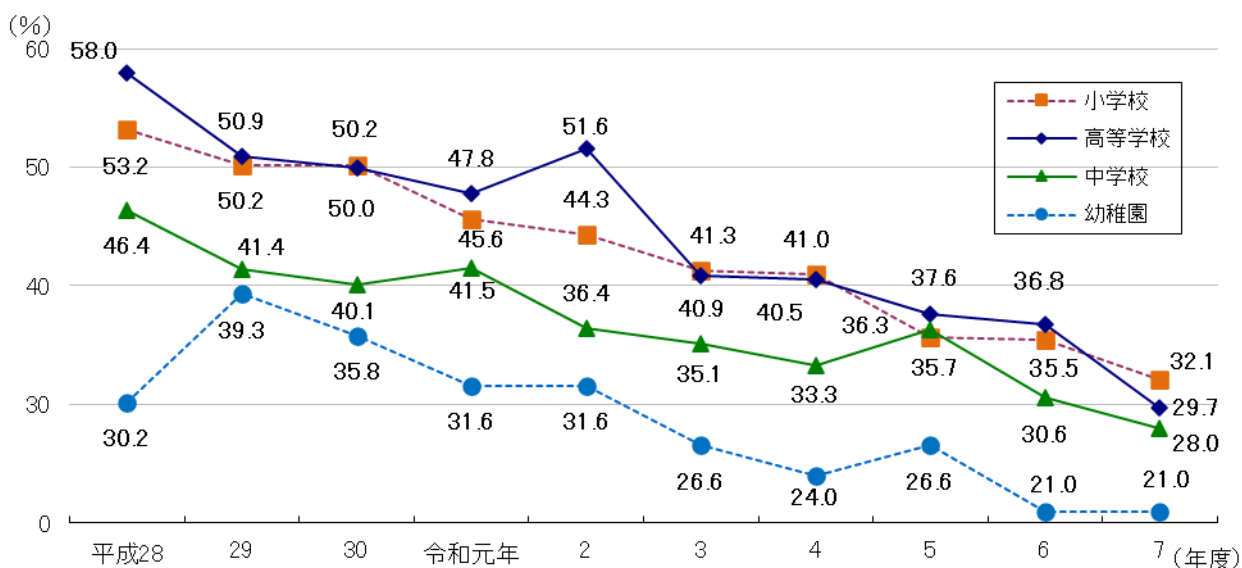
全国と比較すると、14歳以下では、全ての年齢で三重県が全国より高くなっています。

図 6-1 むし歯（う歯）の者の割合（全国との比較）



学校種別ごとにむし歯（う歯）の者の割合の推移をみると、令和7年度は幼稚園21.0%、小学校32.1%、中学校28.0%、高等学校29.7%となっています。令和7年度は、前年度に比べ、幼稚園では同値、小学校では3.4ポイントの減少、中学校では2.6ポイントの減少、高等学校では7.1ポイントの減少となりました。

図 6-2 学校種別 むし歯（う歯）の者の割合の推移（三重県）

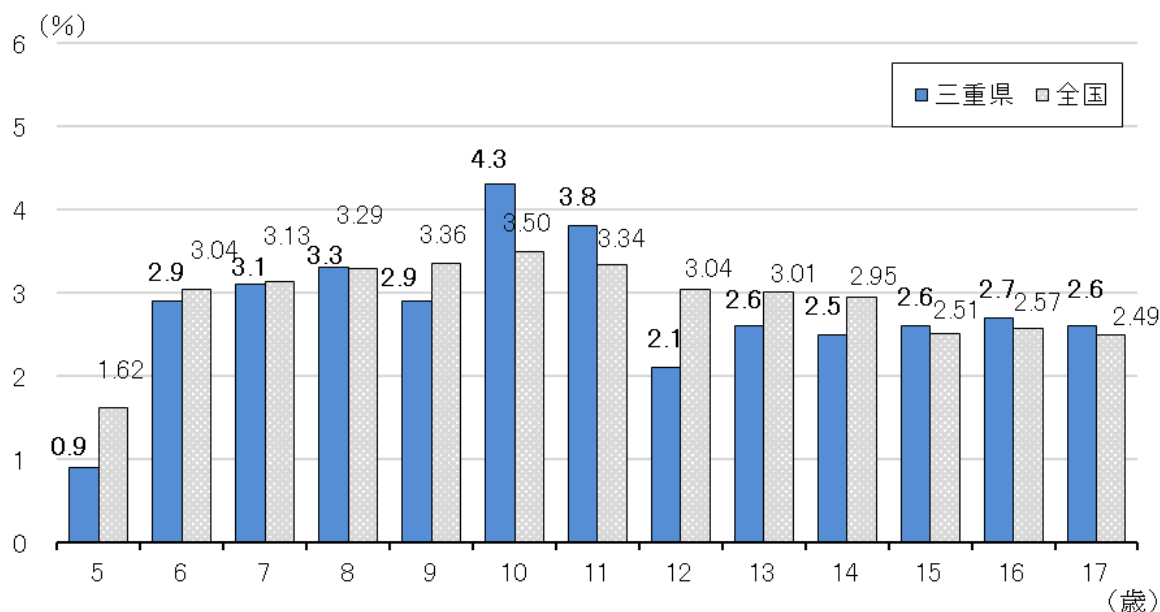


## 7. アトピー性皮膚炎（図 7-1、図 7-2、統計表）

アトピー性皮膚炎の者の割合が最も高いのは10歳で4.3%、最も低いのは5歳で0.9%となっています。

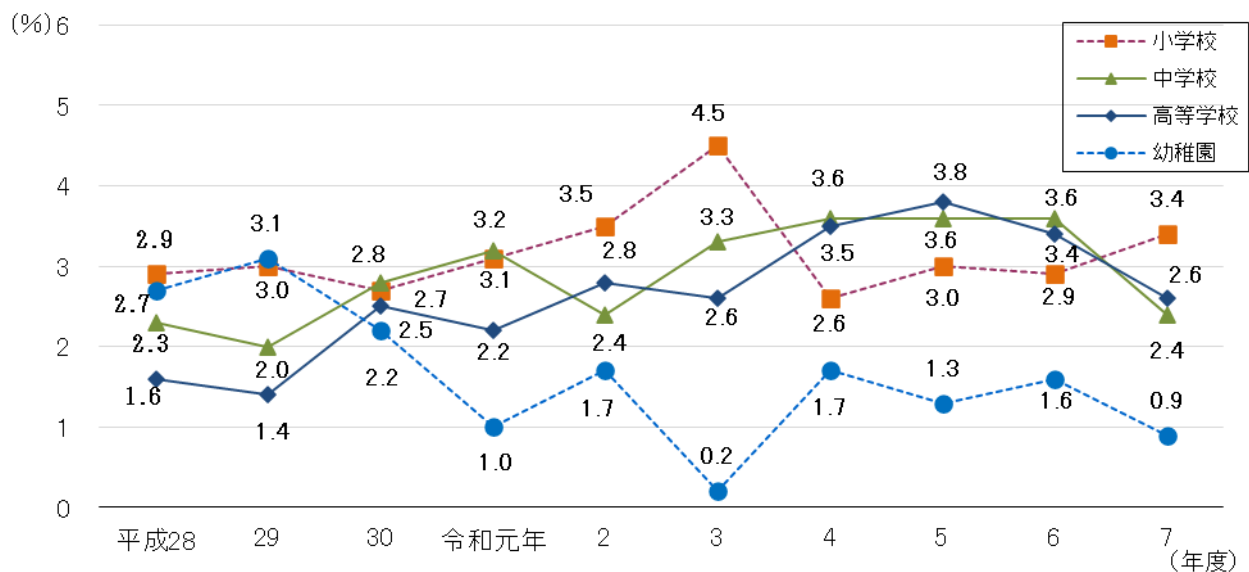
全国と比較すると、8歳、10歳～11歳、15歳～17歳で三重県が全国より高く、その他の年齢で三重県が全国より低くなっています。

図 7-1 アトピー性皮膚炎の者の割合（全国との比較）



学校種別にみると、幼稚園 0.9%、小学校 3.4%、中学校 2.4%、高等学校 2.6%となっています。また、前年度に比べ、小学校は増加し、幼稚園、中学校、高等学校は減少しています。

図 7-2 学校種別 アトピー性皮膚炎の者の割合の推移（三重県）



## 8. 心電図異常：6歳、12歳及び15歳時のみ（統計表）

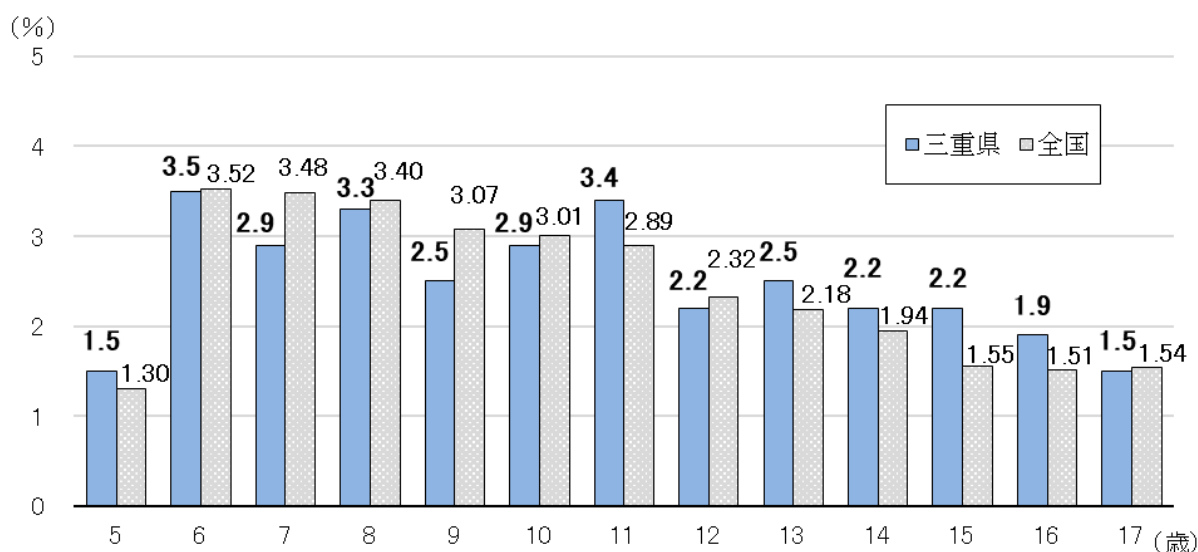
心電図異常の割合は、6歳で2.4%、12歳で3.5%、15歳で4.0%となっています。

## 9. ぜん息（図9-1、図9-2、統計表）

ぜん息の者の割合が最も高いのは6歳で3.5%、最も低いのは5歳と17歳で1.5%です。

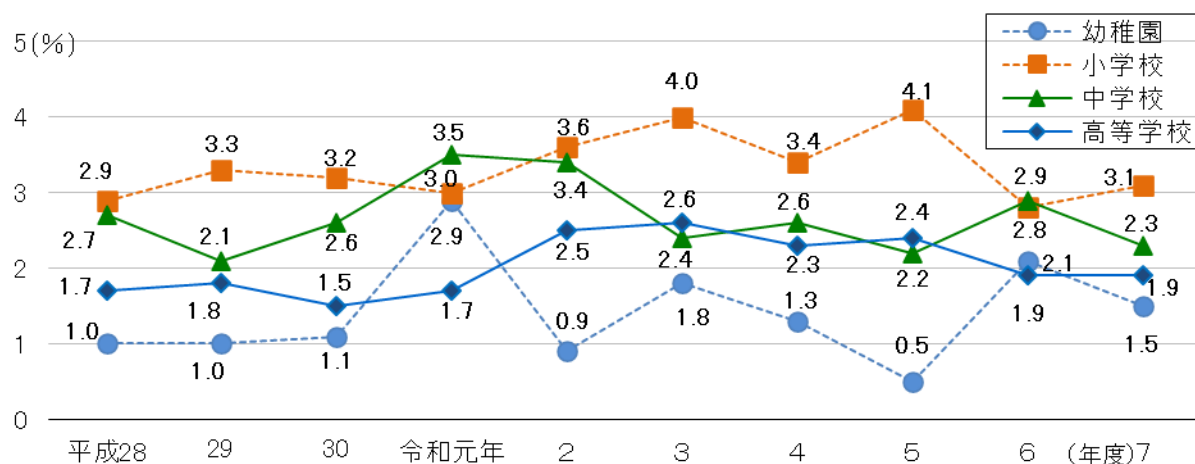
全国と比較すると、5歳、11歳、13歳～16歳で三重県が全国より高く、その他の年齢で三重県が全国より低くなっています。

図9-1 ぜん息の者の割合（全国との比較）



学校種別にみると、幼稚園 1.5%、小学校 3.1%、中学校 2.3%、高等学校 1.9%となっています。また、前年度に比べ、小学校は増加し、高等学校は同値、幼稚園と中学校は減少しています。

図9-2 学校種別 ぜん息の者の割合の推移（三重県）



（注）健康状態調査においては、全国数値は小数点第2位まで、都道府県別数値は小数点第1位までの公表となっています。

## ◆ 肥満傾向児・痩身傾向児の出現率

### 10 肥満傾向児の出現率（表 10、図 10、統計表）

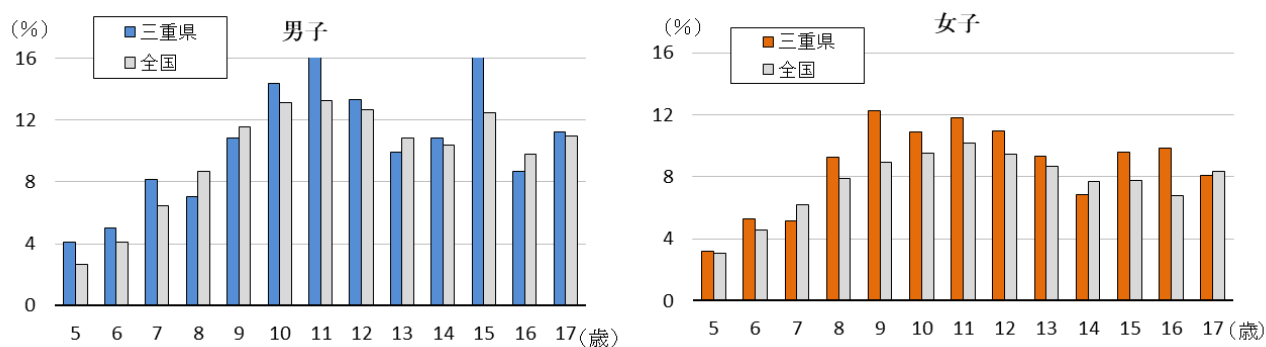
肥満傾向児の出現率は、男子は11歳で最も高く16.17%、女子は9歳で最も高く12.25%となっています。男女で比較すると、6歳、8歳～9歳、16歳で男子の割合より女子の割合が高くなっています。

全国と比較すると、男子では5歳～7歳、10～12歳、14歳～15歳、17歳で、女子では5歳～6歳、8歳～13歳、15歳～16歳で三重県が全国より高くなっています。

表 10 肥満傾向児の出現率

学年・年齢(歳)		男		女	
		三重県	全国	三重県	全国
幼稚園	5	4.10	2.66	3.17	3.06
小学校					
1年生	6	5.03	4.10	5.26	4.53
2年生	7	8.19	6.44	5.14	6.19
3年生	8	7.08	8.68	9.23	7.86
4年生	9	10.87	11.59	12.25	8.93
5年生	10	14.37	13.12	10.91	9.51
6年生	11	16.17	13.24	11.80	10.16
中学校					
1年生	12	13.35	12.68	10.94	9.46
2年生	13	9.93	10.87	9.32	8.66
3年生	14	10.87	10.39	6.83	7.71
高等学校					
1年生	15	16.06	12.47	9.59	7.79
2年生	16	8.70	9.79	9.86	6.80
3年生	17	11.21	10.98	8.11	8.34

図 10 肥満傾向児の出現率



## 11 痩身傾向児の出現率（表 11、図 11、統計表）

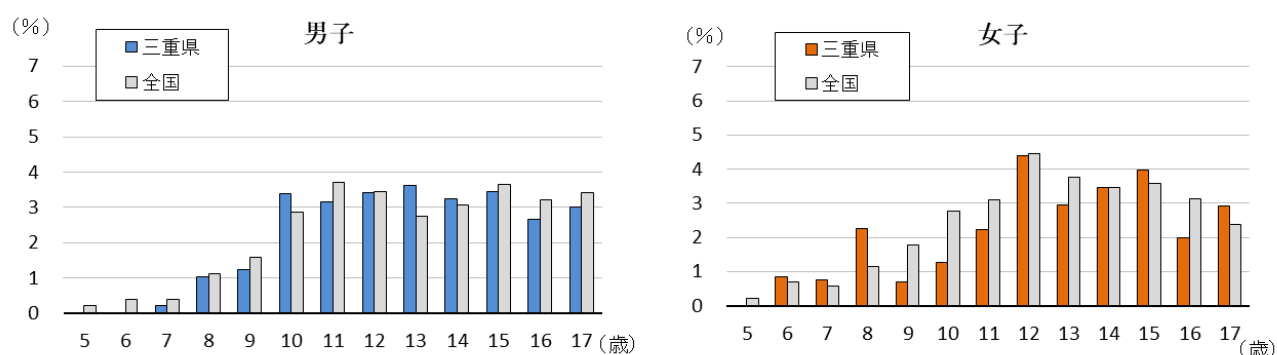
痩身傾向児の出現率は、男子は 13 歳で最も高く 3.61%、女子は 12 歳で最も高く 4.39%となっています。男女で比較すると、7 歳～8 歳、12 歳、14 歳～15 歳で男子の割合より女子の割合が高くなっています。

全国と比較すると、男子では 10 歳、13 歳～14 歳で、女子では 6 歳～8 歳、15 歳、17 歳で三重県が全国より高くなっています。

表 11 痩身傾向児の出現率

学年・年齢(歳)		男		女	
		三重県	全国	三重県	全国
幼稚園	5	-	0.22	-	0.20
小学校					
1年生	6	-	0.40	0.84	0.70
2年生	7	0.22	0.39	0.76	0.57
3年生	8	1.03	1.12	2.27	1.14
4年生	9	1.25	1.59	0.68	1.77
5年生	10	3.38	2.88	1.26	2.78
6年生	11	3.17	3.70	2.23	3.09
中学校					
1年生	12	3.43	3.44	4.39	4.46
2年生	13	3.61	2.76	2.95	3.76
3年生	14	3.25	3.07	3.46	3.46
高等学校					
1年生	15	3.45	3.66	3.96	3.58
2年生	16	2.66	3.21	2.00	3.13
3年生	17	3.01	3.41	2.93	2.38

図 11 痩身傾向児の出現率



(注) 性別、年齢別、身長別標準体重から肥満度を算出し、肥満度が 20 %以上の者を肥満傾向児とし、肥満度が - 20 %以下の者を痩身傾向児としています。肥満度の求め方は以下のとおりです。

肥満度・痩身度 = (実測体重 [kg] - 身長別標準体重 [kg]) / 身長別標準体重 [kg] × 100 [%]



## 健康状態調査項目の詳細

- ① 栄養状態 … 学校医により、栄養不良又は肥満傾向で特に注意を要すると判定された者。
- ② 脊柱・胸郭・四肢の状態 … 脊柱・胸郭・四肢のいずれかが、学業を行うのに支障があるような疾病・異常と判定された者。
- ③ 裸眼視力 … 視力検査の結果について、両眼とも 1.0 以上及び両眼又は片眼の視力が 1.0 未満と判定された者について、左右のうち低い方の視力。
- ④ 眼の疾病・異常 … 「伝染性」又は「感染症」と明記のある疾患と判定された者（例：トラコーマ、流行性角結膜炎、流行性結膜炎、伝染性結膜炎、細菌性結膜炎、ウイルス性結膜炎等）、若しくは伝染性眼疾患以外の眼疾患・異常の者。（例：疑似トラコーマ、麦粒腫（ものもらい）、眼炎、眼瞼緑炎、斜視、睫毛内反、先天性色素網膜症（白眼児）、片眼失明、アレルギー性結膜炎（花粉症等））
- ⑤ 難聴 … オージオメータを使用して検査をした場合、1,000 ヘルツ（低い音）において 30 デシベル又は 4,000 ヘルツ（高い音）において 25 デシベル相当の音（両方の音又はどちらか片方の音）が聴取できない者。 ※片方の耳のみが異常の者は含まず、両耳とも異常の者を計上。
- ⑥ 耳鼻咽喉頭疾患
  - (a) 耳疾患の者 … 難聴以外の耳疾患・異常の者。（例：急性又は慢性中耳炎、内耳炎、外耳炎、メニエール病、耳介の欠損、耳垢栓塞、小耳症等）
  - (b) 鼻・副鼻腔疾患の者 … 鼻・副鼻腔疾患・異常の者。（例：慢性副鼻腔炎（蓄膿症）、慢性的症状の鼻炎（乾燥性前鼻炎等）、鼻ポリープ、鼻中隔彎曲、アレルギー性鼻炎（花粉症等）等）  
※インフルエンザ又はかぜによる鼻炎等の一時的な疾患・異常と判定された者は含まない。
  - (c) 口腔咽喉頭疾患・異常の者 … 口腔咽喉頭疾患・異常の者。（例：口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、唾石等のある者、アデノイド、扁桃肥大、咽頭炎、急性又は慢性的症状の喉頭炎、扁桃炎、音声言語異常等）  
※インフルエンザ又はかぜによる咽頭炎等の一時的な疾患・異常と判定された者は含まない。
- ⑦ 皮膚疾患
  - (a) アトピー性皮膚炎の者 … アトピー性皮膚炎（眼瞼皮膚炎等）と判定された者。
  - (b) その他の皮膚疾患の者 … (a)以外の皮膚疾患と判定された者。（例：伝染性皮膚疾患、毛髪疾患、尋常性白斑、みずいぼ（伝染性軟属腫）等）
- ⑧ 結核に関する検診 … 結核に関する検診の中で、学校医の診察等の結果、精密検査の対象となった者。
- ⑨ 結核 … 精密検査の結果、結核患者として判定された者。  
※個人的に医師の診断を受けて結核と診断された者及び以前から結核で休養している者を含む。
- ⑩ 心電図異常 … 心電図検査の結果、異常と判定された者。  
※単に心電図所見を記入してある者で、特に医師が問題を指摘しなければ正常として取り扱う。
- ⑪ 心臓 … 心臓の疾病・異常の者。（例：心膜炎、心包炎、心内膜炎、弁膜炎、狭心症、心臓肥大等） ※心音不順、心雑音及び心電図異常のみの者は含まない。
- ⑫ 蛋白検出 … 尿検査のうち、蛋白第1次検査の結果、尿中に蛋白が検出（陽性（+以上）又は擬陽性（±）と判定）された者。

- ⑬ 尿糖検出 … 尿検査のうち、糖第1次検査の結果、尿中に糖が検出（陽性（+以上）と判定）された者。
- ⑭ その他の疾病・異常
- (a) ぜん息の者 … 気管支ぜん息と判定された者。
- (b) 腎臓疾患の者 … 腎臓疾患と判定された者。（例：急性及び慢性腎炎、ネフローゼ等）
- (c) 言語障害の者 … 話し言葉の働きに障害のある者。（例：吃音（どもり）、発音の異常、発声の異常（聞き手が理解しにくい程度の発音や声の障害）、口蓋裂、脳性麻痺等に伴う言葉の異常、難聴による発音の異常、その他情緒的原因による緘黙症、自閉症や言語中枢に障害のある失語症）
- (d) その他の疾病・異常の者 … この調査のいずれの調査項目にも該当しない疾病及び異常の者。（例：貧血、てんかん、ダウン症、筋ジストロフィー、多発性硬化症、起立性調節障害、卵巣腫瘍、うつ病、無脾症候群（脾臓無）、糖尿病、食物アレルギー、非骨仮性線維腫、脳波異常、発達障害（自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害）、痙攣、周期嘔吐症、好中球減少症、チック等）
- ⑮ 歯・口腔
- (a) う歯… 乳歯又は永久歯がむし歯の者。 ※要観察歯（CO）は含まない。
- (f) 処置完了者 … 乳歯、永久歯を問わず、全てのう歯の処置が完了している者。
- ※未処置歯が1本でもあれば、「未処置歯のある者」として取り扱う。
- (i) 未処置歯のある者 … 乳歯・永久歯を問わず、う歯の処置を完了していない歯が1本以上ある者。
- (b) 歯列・咬合… 歯列異常（叢生等）、不正咬合の疑いがあり、専門医による診断が必要とされた者。
- (c) 顎関節… 顎関節症の疑いがあり、専門医による診断が必要とされた者。
- (d) 歯垢の状態… 歯に相当の付着がある者。
- (e) 歯肉の状態… 歯肉に炎症があり、専門医による診断が必要とされた者。
- (f) その他の疾病・異常の者 … 上記以外の歯・口腔の疾患・異常のある者。
- （例：口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、唾石、癒合歯、要注意乳歯）
- ※歯石のみ及び歯周疾患要観察者（GO）は含まない。
- ⑯ 永久歯のう歯等数（喪失歯及びう歯の本数）12歳(中学1年)のみ … 永久歯のうち喪失歯及びう歯（処置歯、未処置歯）があると判定された者全員の喪失歯、処置歯、未処置歯の合計本数。
- (a) 喪失歯数 … 永久歯が、う歯によって脱落したり抜去したりして歯がない状態の本数。
- (b) 処置歯数 … う歯を充填、補綴（金冠、継続歯、架工義歯の支台歯等）によって歯の機能を営むことができると認められる状態の永久歯の本数。
- ※再発等によって処置を要するようになったものは未処置歯として取り扱う。
- (c) 未処置歯数…う歯（C）と判定された永久歯の本数。※要観察歯（CO）は含まない。